

創立 100 周年記念 遠藤先生講演会 感想

3 年生

今日の話聞いて勉強する意欲というのはとても大切だと感じました。確かに私は大学に入学することを目標として生活していますが、海外の同年代の人は大学卒業後を見据えて大学生でも頑張っ勉強し続けていることを聞き、そういうことの積み重ねで海外と日本の差が拡大して行くと思いました。大学生になってからも勉強する意欲を忘れずに生活すると、将来がより豊かになると感じました。

そして、先生のお話で最も印象に残ったのは人との関わりです。私は自分の意見を伝えることが苦手ですが、日本人だけとの関わりから出て、海外の人と関わる時はしっかりと意見を考えるだけでなく、伝えることが必要だとわかりました。そして国内外関わらず、たくさんの人とコミュニケーションを取っていきたくたいです。また、先生のお話で友達がとても大切だということも印象に残りました。普段高校で生活していて、友達から学ぶことはたくさんありますし、自分と異なる考えを持つ人と関わることで、より多角的に物事を考えられるようになると思います。だから高校で仲良くなった友達のことを大切に。将来出会う人のことも大切にして生きたいと思います今回の講演会で改めて生活の仕方を見直してみたいと思いました。

現段階で頑張っうまくいかないことがたくさんあるけれども、それは今はそうであるだけで、長い人生の中で徐々に解決していくことができ、さらに大きな成果が得られるのかもしれない考えると、もう少し頑張っみようと思えた。また、私たちは今ではほとんどの人が行く高校という学びの場が、当然のように与えられ、勉強をやらされている、と感じてしまうことが多々あり、学ぶことの本来の目的を忘れてしまいがちであるが、それを忘れずに能動的にいろいろなことを吸収し、これからの人生で生かしていければいいなと思った。

現在 SNS などの普及により、情報は容易に得られる時代になったが、よく言われるように、そこから得られる情報は自分の興味のあるものが多く、それ以外の情報があまり得られない。それにより見える世界の範囲が狭くなるように感じる。だから今学校で学べるのが興味のないことでも学び。物事をさまざまな角度から見るができる人になりたいと思った。それにいろんなことを知っているとも友好関係も広がるいいことだらけだと思った。

英語の点数 20 点だったとお聞きしましたが、その時に諦めず努力して英語で論文を書いていくことは本当にすごいと思いました。遠藤先生のおっしゃった努力をすれば報われるという言葉が胸に響きました。私も英語は苦手ですが、これからたくさん英語を勉強して行きたいと感じました。

どんぐりの中の虫のことは、落ちていたどんぐりを見た時に知りましたが、よくよく見てみるといろいろなことが行われているんだと驚きました。葉っぱや木に注目していることはあまりありませんが、よく見てみるといろいろな生物が生きていて、一生懸命暮らしているということを感じました。そのような生物のためにも、環境をより大切にしていかなければならないと改めて考えるきっかけとなりました。日本はたくさん働き、たくさん稼いでいると思っていましたが、世界のうちでそんなに高くなかったのが驚きました。働いてもあまり稼げないのは悲しいと感じました。現状維持が大切な時もありますが、イギリスだったら、産業革命で財政赤字を減らしたように、日本でも革新を起こすことが必要なのだとよくわかりました。また、それは私たちの世代にかかっていると思いました。化学の教科書に載っているカーボンナノチューブの大量合成法開発した遠藤先生の話をお聞きすることができ、貴重な経験になりました。

まず、現在の地球温暖化の状況や今後の予測の話聞いて、温暖化の問題は私が持っているよりもずっと深刻であること、また日本の成長は停滞していて、世界からはどんどん置いていかれていることを知りました。そしてこのままではダメだという危機感を覚えました。また、イギリスの産業革命によって再興できた例からも、遠藤先生が何度も繰り返していた技術革新が、いかに今の日本に必要であるかがよくわかり、それこそがこれからの私たちに求められていることであるということが分かりました。また、そうした人材を目指す上で必要なこともたくさん教えていただくことができ。これらは大学受験に向けたこれからの期間において心の支えになると思いました。それだけでなく、大学生活や社会に出てからも心にとどめておきたい言葉だとも思います。これからは目先の受験についつい目が行きがちだけれども、もっと大局的な視点を持って学び続けていきたいと思いました。

地球における課題と勉強について素晴らしいことを聞いた。地球が46億年を通して作ってきた空気の層。サッカーボールで例えると、サララップ程度の厚さの大気が人間が現れることでたくさんの二酸化炭素を含んでいることを知り、いち早く解決しなければいけないと思った。

日本ではGDPが2位から23位に下がったり、勉学の面でも世界に後れをとっていたりすることからイノベーションが必要だということがわかった。そのためには、大学に行くことを目標にするのではなく自分の夢を叶えることを目標にすること、自分の意見を伝えることが大切だということがわかった。私は自分の夢を持って諦めず、追いかけていきたい。

化学が苦手な私にとって、遠藤先生の科学の話は初めて面白いなと思いました。苦手だと感じたことから逃げることが多く、本来の面白さに気付いていなかったのだと感じました。私が衝撃を受けた話は、地球が誕生してから今までを1年で例えた時、人間が今のように生活し出したのは12月31日の11時59分59秒という。たった1秒でしかないということでした。そんな短い時間で、ここまで生活を発展させた人間の科学力というものを感じたし、人間ってすごいなと純粋に思いました。

また、他にも先生のお話の中でつらいことが大きいほど得られるものも大きい。夢や希望を持って勉強すれば、どんなことも乗り越えられるという言葉がとても心に残りました。素晴らしい経験をお持ちになっている先生の言葉はとても重く、説得力がありました。少し勉強に対して嫌な気持ちが増えてきている私にとって、先生の言葉は胸に刺さりました。そんな素晴らしい方が私たちの先輩としていてくださることがとても心強く、勇気づけられました。

成人となった今、自分のためだけに生きて行くのではなく、社会や環境問題にもしっかりと目を向け、勉強に励んでいきたいなと思います。「事に対して、人に対さず。」どこに疑問を向け、自分は何を思うのか？自分や相手の意見を大切にしていきたいです。

冒頭でのお話で英語がとても苦手だったとおっしゃっていたのを聞いて驚きました。自分も英語が苦手なので、あきらめずに頑張ろうと思います。常日頃からテレビなどでSDGsや環境の変化に関わる話を聞きますが、教科書に載っているような重要な発見をされた研究者、ご本人から直接お話を聞くことができたのは、自分にとってとても貴重な経験でした。私は他人と比べるとあまり人づきあいが得意ではないので、Strength of weak tieについてのお話をしていたときは少し落胆していました。勉強や日常生活でも、私はあまり自分から挑戦せずに受け身になったり、目を背けてしまうのですが、遠藤先生の話聞いて自分から探求していくことが大切だと思ったので、自分なりに頑張りたいです。

私は今日の講演会で一番印象に残った言葉はつらいことが多いものほど、それから得られるものが多いという言葉で、今年、私たちは受験や部活、生徒会などで辛い事もいっぱいあるけど、その分得られるものが多いと考えることによって、受験などを少しでもポジティブに考えることができるようになるのかなと思いました。

日本の大学生が外国の大学生より勉強時間が少ないというのを聞いて、私は夢を叶えるために大学に行きたいので、外国の大学生くらい勉強できるように努力して、夢や希望を叶えるための勉強をしたいなと思いました。また、私は薬学に興味があり、遠藤先生が日本は薬学などの論文の分野の他国と比べてとても遅れているのを聞き、これからの世界を変えることは私たち若い人にしかできないことなので、周りの人と少しでも世界からの日本の見方を変えるために大学で努力していきたいなと思いました。

また、カーボンナノチューブの話聞いて、今まで以上にカーボンナノチューブの有用性を感じ、遠藤先生のカーボンナノチューブを通じた海水から淡水へ帰る技術の凄さを感じました。これを発見するには、大変な努力や時間がかかったと思うけれど。これにより、発展途上国での清潔な水不足などの社会問題を解決して行ってほしいなあと思います。私たちも少しでも世界を変えられるように努力したいです。

遠藤先生が高校時代に英語を頑張り、今現在その勉強が報われていることを聞き、高校1・2年を私は無駄にしてしまったと後悔しています。それでも残った時間で英語だけでなく、ほかの教科も頑張っていきたいと思いました。今、日本は世界の中での序列がいろいろな分野で下がっていると感じます。それを挽回するには、僕ら高校生世代が現状を知り、この先を担っていかなければならないという自覚を持たなければならぬと思いました。そのためには、僕たちが大学で意欲的に積極的に勉強を研究して行くことが必須であると学びました。日本は世界に打ち勝つためには、また世界が世界問題を解決するには、僕たち次世代の想像力が必要だと聞き、僕らへの期待感、使命感を感じました。その中でも日々意識して行きたい事は努力を惜しまないということです。努力をすれば必ずその努力は報われるということについて、今まで疑問を抱いていました。しかし、実際に目の前に努力に報われた先生がいて、お話を聞いて確信を得ました。これからの生活を一生懸命頑張っていきます。遠藤先生のこれからのご活躍をお祈りしています。本日はありがとうございました。

環境に関する問題や社会問題の原因や現状を知りました。どんな問題であっても、理系や文系に関係なく、様々な視点から考えることが大切だということが分かりました。今までは大学受験を目標にして勉強していることも多かったのですが、大学に入学した先、社会に出た先のことを想像し、今勉強をあきらめずに頑張ることが未来につながるという話を聞き、どの教科の勉強も諦めずに頑張ろうと思いました。遠藤先生は英語が高校時代に苦手だったとおっしゃってましたが、大学では留学をして研究されていて、今でも外国で講演会をされていると聞き、苦手な科目もいつか役に立つということを実感しました。先生は科学だけでなく経済や生物など幅広い分野の知識をお持ちで、グローバルな視点からお話をされていたのが印象的でした。質問に対する回答も明確で、とてもわかりやすかったです。今日の講演は自分の勉強の仕方や将来を見つめなおすきっかけになりました。

遠藤先生が高校時代に英語を頑張り、今現在その勉強が報われていることを聞き、高校1・2年を私は無駄にしてしまったと後悔しています。それでも残った時間で英語だけでなく、ほかの教科も頑張っていきたいと思いました。今、日本は世界の中での序列がいろいろな分野で下がっていると感じます。それを挽回するには、僕ら高校生世代が現状を知り、この先を担っていかなければならないという自覚を持たなければならぬと思いました。そのためには、僕たちが大学で意欲的に積極的に勉強を研究して行くことが必須であると学びました。日本は世界に打ち勝つためには、また世界が世界問題を解決するには、僕たち次世代の想像力が必要だと聞き、僕らへの期待感、使命感を感じました。その中でも日々意識して行きたい事は努力を惜しまないということです。努力をすれば必ずその努力は報われるということについて、今まで疑問を抱いていました。しかし、実際に目の前に努力に報われた先生がいて、お話を聞いて確信を得ました。これからの生活を一生懸命頑張っていきます。遠藤先生のこれからのご活躍をお祈りしています。本日はありがとうございました。

遠藤先生が自身の専門分野だけでなく、様々な分野の問題に関心と知識をお持ちで驚き、多くのことを学ぶことができたと思います。火力発電時に発生する煙の温度や石炭、石油の5割が電気に変化していること、さらに地球の平均気温が1度上昇すると穀物が10%減る予測があるという具体的なデータを知り、地球温暖化への危機感がより強まりました。確かに技術を発展させ、暮らしを豊かにするのは素晴らしいことですが、環境保全という観点で見つめ直すことも同じくらい大切だと思いました。

また、GDPに関して見ると、日本は後進国になりつつあるということに衝撃を受けたし、その劣る部分として高等教育が挙げられていて、論文数や博士数の少なさをグラフから痛感しました。そして何より日本の抱える借金がGDPの2倍に及ぶことを知り、危機感を覚えました。先生がしきりにおっしゃった「君たちは」や「君たちが」という言葉に、私たちがこの状況を打開する第一任者になる可能性があるのだと強く実感し、もっと自分たちの問題として捉える必要があると思いました。

カーボンナノチューブは銅に替わる送電線として使用されたり、充電の必要がない電池の開発に用いられるたりと、遠い未来でも活躍する存在なのだとなり。それを発見した先生の偉大さを改めて感じさせられました。ノーベル賞受賞者の勇気・挑戦・不屈の意志、努力が想像力の源になるというメカニズムは、やろうと思えば多くの人ができることで勇気が出ました。

日本人は他人に対して発言をし、その相手を気遣う傾向がありますが、ものに対しての発言をするのが世界だという説明に納得しました。「勉学の努力は裏切らない」や「つらいことが多いほど成果が大きい」という言葉に背中を押され、励まされました。

自分にはこれまで縁のなかったジャンルの話で新鮮な気持ちで聞くことができました。学びのレベルが低いということは、日本発の開発のネックになる部分だと改めて痛感しました。意見を述べること＝意欲の表れ、であることが海外の大学生と日本の大学生の学習意欲に顕著に表れていると思いました。

自分が将来なりたいもの、叶えたいことに対して真摯に向き合い、地道に努力を続けることで達成できることの幅は大きく広がるものだと思います。また例に上がった中国の大学での話し合いでの他人の意見に対して否定するのではなく、付け加えていくなど、今の私たちの周りには見られないことだと感じました。今日の講演を踏まえて、自分の将来のためにきちんと向き合い、大学入学はゴールではない事を念頭にこれから頑張っていきたいと思います。

専門ではないんだろうなという分野も詳しくご存知で、すごいなあと思いました。たくさんものを知っていたほうが見える世界が鮮やかなんだろうなと思います。私も今後は食わず嫌いをせず。興味の有無に関わらず、さまざまな分野に足を踏み入れてみたいです。

今世界にはパンクしそうなほどに大量の問題があって、そういうものに苦しめられている人達には、学問の余裕などないのだろうと思うと、やるせない気持ちになりました。勉強はしんどいけど、できる環境に感謝すべきで、少しでも多くの人が学ぶことを楽しめるように、現状学びの機会を得ている人が頑張らないといけないなと思います。その過程で遠藤先生のように人々の役に立つ研究を成功させた人がいるのだから、学問から生まれる力の偉大さに驚かされます。科学や技術は1位でなければ意味がなく、2位以下は二番煎じと言われてしまうという言葉が印象的でした。私は科学とか技術とかの世界に明るくなくて、むしろ二番煎じでなんぼやろ、みたいな景色の方がなじみがあるので、シビアな基準で努力を重ねている人たちはすごいなあと思います。二番煎じがはびこる中で、そういう指摘に惑わされずに自分の信じる世界を妥協なしで表現しようとする人たちのこともすごいと思います。尊敬する人たちばかりの大変な世の中です。

「ことに対して 人に対さず」という言葉に感銘を受けました。対面での議論だけでなく、異なるコミュニティに生きる人間が、雑音に集まるインターネットやSNSの場でも大切にしたい心構えであると感じました。誰かが自分の思うところを発信する勇気を持つためには、周囲の人々の聞く体制が鍵を握っているのだと気づかされました。寄り添いあってきたいものです。

2年生

高校生のうちの学びの大切さ、つらいと思っても頑張ることの大切さをとても感じました。今の頑張りが今実らなかったとしても、いつか自分のところに帰ってきてくれるという言葉にとっても励まされました。世界には汚い水によって十分に水を得ることができないという人が何億人もいて、さまざまな地球の問題を改善をするために行動することができるのは、私たち高校生であると改めて感じました。環境災害が次々と起こっていることで人は苦しめられていますが、その主な原因となっているのは人である。人が人を苦しめていると思いました。人が原因で生み出したことを改善することができるのも人だけだろうと思います。人間がエゴを追求し続けることが、すべての生命を危険に追いやっていることをしっかりと自覚して、人間としての責任をしっかりと果たすべきであると思います。

日本が昔の栄光や経済力からだんだん低くなっている理由は、大学という高等教育の進歩が足りなかったことという言葉にとってもお話にすごく胸を打たれました。私も大学に行くことを目指しています。大学を目指している身として、もっと頑張らないといけない。大学へ行く入学できることはもちろん大切だけど、大学へ行ってからも勉強しないといけないという気持ちになりました。大学に行ってから博士過程まで進むことの大切さを知ることができましたが、私は大学に行き、国家資格をとって早く仕事に就くことに重きを置いていたので、自分の考えは浅はかだったのではないかと感じた。今後について深く考える良い機会になりました。ありがとうございました。

特に夢や希望を持って勉強することの大切さを感じました。遠藤先生はカーボンナノチューブなどの研究で、国内だけでなく国外からの知名度があるので、より夢を持って学ぶことの大切さについて説得力を感じました。また、世界にも目を向けることは大切だと感じた。また、臥龍山のドングリについても、まったくなぜ落ちてくるのか考えたことがなかったなと思い、どングリや葉っぱが落ちてくるのはある昆虫の生態によるものだと知ったときは驚いた。同時に、自分は全く科学的な理由や疑問を探したり感じたりしてこなかったなと思い、自分は文系ではあるけれど、科学的な視点を持つことで生活が豊になるのだと感じた。そして何より柔軟な発想を持つことの大切さが大事で、やっぱり発想する力がなければいけないし、それさえあれば夢で終わることはないのだということを、今回の講演会で改めて気づいたように思います。

偉い大学教授の講演会が開かれると伺った時、私自身、堅苦しくて苦手なイメージがありましたが、先生のお話を聞いているうちに共感できることが今の自分の置かれている状況とリンクしている部分が多く、話が思っている以上にすんなりと頭に入ってきたことに驚きました。私は中学の時から英語が苦手で、長文読解で時間が足りなくなって高校受験は特にしんどかったです。あと、リスニングも苦手で半分点数もらえるかももらえないかぐらいでした。英語が苦手なまま高校に入って、正直苦勞しています。テストではいつも決まって点数が悪いのが今の悩みです。しかし、先生の話聞いて英語ができなくて悩んでいるのは自分だけじゃないんだと気づくことができ、少し安心しました。また、英語を勉強するためにフランスに留学していたことに勇気をもらいました。なんで勉強するのか、自分がついつい考えてしまう問いに対して、夢や希望を持って勉強することで、いろいろなことを乗り越えられる。と自分の言葉で自分なりの答えに自信を持って回答しているところがすごく印象に残りました。どうかお体に気を付けて研究を続けて下さい。本当にありがとうございました。

一番今回の講演で学んだことは、「どのように生きるか」ということだ。遠藤先生はとてすごい人で、自分とは住む世界が違うと思っていた。しかし、遠藤先生にも苦手なことがあり、学生時代、苦勞してきた。しかし、必死に立ち向かった過去があるからこそ、今があるとおっしゃっていた。それを聞き、自分も何かできるのではないかと思った。勉強についてはもちろん、まだまだたくさん学べることはあるので、さまざまなことに興味を持ち、学んでいきたい。何かゴールに向かって進んでいる時、そのゴールの先をみるといいと遠藤先生はおっしゃっていた。今まで目の前のことだけに全神経を注いできた自分にとって、そんな考え方があるのかという驚きもあった。夢、希望を持ち、全力で楽しみたい。遠藤先生は仲間こそが宝とおっしゃっていたが、自分もその通りだと思う。仲間による外からの刺激と。自分の中の夢、希望をこれからもっと大事にして生き、たくさん学んでいきたいと思った。

今日の講演会において、自分は最初の方に話があった「自分は英語ができなくて、どれほど勉強して良い点数が取れなかった」という話。この話はとても僕に刺さりました。自分も英語が嫌いで、勉強をしても良い点数を取れずにいます。しかしその後、遠藤先生がお話しになられた勉強して学んだ者は必ず長い人生の中に生きて行くという話を聞いて、今のままでよいのだろうか、と思いました。点数が上がらないと、やっても意味がないと考えてしまっている。今の僕の現状を指して言っているように聞こえて、深く心に刺さりました。どれだけやっても嫌いという気持ちや苦手という考えは変わることはないのかもしれないけれど、そこでもう意味がないと結論をつけて、何も変わらない楽な方に考えることは違うことだ。意味のない学びなんてないんだと僕は思いを改めるようにしようと思いました。

その後の遠藤先生のお話にも面白いもの、興味を引かれるような経験からのお話がありました。それらのジャンルはただ一つの専門的なものではなく、いろいろなお話を聞けました。それもすべて今までの人生の学びだと思いました。自分もこれから無意味と切り捨てずに、多くの学びを得ようと思いました。

今日の講演を聞いて、夢や希望を持って勉強するという言葉が心に残りました高校生のときにやったことや苦勞したものが大きければ大きいほど帰ってくるものも大きいと聞いて、今やっていることもいつかは自分のためになって思いがけないところで役に立つかもしれないと思うと、今から頑張っておこうと思うことができました。

また、次の世代の担い手として、私たちが積極的に世界に対して発信したり、国内の狭いフィールドだけに目を向けるのではなく、さらに広い視野を持って、いろんなことに興味関心を持ってみるということが大事だと思います。またイノベーションという言葉聞いて、今、私たちが普通に使っているパソコンなども40年から50年の年月をへてイノベーションが起きたことで、今の形があるわけで、本当にそんなことできるのかという夢を実現した人がいるから、今の私たちが豊かに暮らしていけると思うと、私たちも次の世代の人たちのために何かイノベーションを起こしたいなとも思いました。

なれる自分となりたい自分のギャップを埋めていきなり自分になるために努力する。そして努力すれば必ず報われるということを感じて、苦手なこととか、嫌いなことも、夢と希望をもって一生懸命向き合っていきたいなと思いました。

今の日本や世界が置かれている状況が分かりやすかった。これからの未来を変えていくのは、私たちというメッセージがすごく伝わってきた。イノベーションを起こす、そんな人間になりたいと思った。そんな人間になるために努力、勇気、多様性を認め、夢を持つこと、人間関係を広げること、挑戦し続けること、あきらめないこと、愛情を持つこと。今後の人生に必ず役立つことを教わりました。今後世界と関わりが増える世の中で、積極的に行動する勇気が大事だと思いました。

「ことやものに対して、人に対せず」という言葉がすごく心に残りました。カーボンナノチューブという未来で必ず必要になる技術をこのタイミングで見ることができてとても興味が出ました。これからの人生を、イノベーションを起こすために、成功するために、深くずっと追いかけて諦めない＝ネバーギブアップを大切にしていきます。

カーボンナノチューブによって様々な夢が実現できると知りました。今までは全く相手にされていなかったことでも、イノベーションを信じて学び続けると明るい未来が見える可能性を学びました。日本は落ちぶれていっているとは知っていましたが、ここまでとは思っておらず、楽観視していた部分がありました。世界を見て、日本の課題に自分なりにできることを探したいです。また、自分の意見をしっかりとと言えるような知識や自信を持てるように、今この高校から大学社会に出る人との準備として、勉強や対人関係を努力して行きたいです。

自分の夢があったならば、絶対に諦めずに努力をし続けることが大切だと思いました。夢や希望を持って勉学に励むことで、より勉強がはかどるとおっしゃっていたので、これから勉強する時はそのことを忘れないようにしたいと思いました。また、ただひたすらに教科書、参考書を見るのではなく、インプット3割、アウトプット7割を意識してアウトプットの量を増やして行きたいと思いました。

日本人の多くは大学に行くことがゴールだと考えていて、アメリカ人はその先の未来のためにいくたえに大学があると考えている。このような考え方の違いが、毎日の勉強の時間やモチベーションに影響してくることがわかりました。だから、私も大学をゴールだと思わずに、その先の未来を想像して、どんな自分になりたいのか、そのためにどうすればいいのかを考え続けていきたいと思います。

科学的なことについてのお話が難しかったけど、化学で習ったカーボンナノチューブの仕組みや、地学で習った地球温暖化がなぜ起こるのかなど、今まで勉強したことが今日のお話につながっていることが多く、今頑張っていることが改めて無駄じゃないということを実感した。

日本の技術は世界的に見ると遅れていたり、論文などの点においても他の国に比べ遅れをとってきているということを知り、これからの地球問題のことを考えたものだったり、若い人たちの柔軟な発想を生かして行くことが、これからの未来や世界に向けて大切なことだと思った。

私自身、理系だけれども、いくら頑張っても点が伸びなくて落ち込む時があるけれど、遠藤先生の英語の話を聞いて、いつかできるようになる時が来るかもしれないから諦めず一生懸命勉強して行きたい。今まで受験がゴールだと思っていたけれど、そこがゴールではなく、その先に夢だったり、いろんな可能性があることがわかった。受験だけではなく、自分の未来の夢とその先のために頑張っていきたい。

勉強は何のためにするのか？どうしても嫌になってしまうことがあるけど、今日の講演で、勉強の努力は決して裏切らないという言葉聞いて、諦めずに自分の夢に向かって努力することは大切だということがわかった。今、私はたくさんつらいこと、悩むことがあるけれど、それ以上の成果を得られるということを聞き、これからも頑張ろうと思えるようになりました。また想像力が大切ということもわかりました。日々挑戦し、失敗することを恐れない心を持ち続けたいと思います。

講演を聞く前までは、遠藤先生は自分にとって遠い存在だなと思っていたけれど、遠藤先生も自分と同じく須坂高校で学び、勉強に対して苦手な気持ちもあったと言うことを聞き、自分が今、思い描いている夢は夢じゃないなと思えるようになりました。「なりたい自己」を「なれる自己」に変えられるようになるまであきらめずに努力をすることをやめないで挑戦し続けたいと思いました。とても貴重なお話をいただきました。これからも頑張ります。

1年生

普段ニュースを見ない僕にとっては38%の動物が絶滅の危機に瀕しているなんて衝撃でした。2050年に人口が100億人に達し、地球が2,3個必要となるなんてスケールが大きすぎて驚きました。日本の高等教育が劣っているのは知っていましたが、それがGDPと結びついていることを初めて知った。

遠藤先生のカーボンナノチューブの未来の活用法にはとても興味を持ちました。一度充電するだけで10年、20年充電不要な携帯電話ができれば、情報社会がどれだけ発展するのかなと思うとワクワクしました。他にも宇宙エレベーターや銅の代わりにカーボンナノチューブを電線として使うといったことを知ることができ、未来でカーボンナノチューブの使われる場面が広がるのではないかと思います。今日は貴重な講演会を開いていただき、ありがとうございました。一度充電するだけ長く使える携帯については、携帯会社と取り組んでいると聞いたので、もし実現したら絶対に購入します。

まず、地球の成り立ちから今現在の地球の状況に加えて、ほかの太陽に近い惑星のことについても改めて確認できた。地球の歴史を一年にした時に、ものすごいスピードで人間が環境破壊を繰り返していることがわかり、自分が怖くなった。また、地球の温度が一度上がるごとに、穀物収穫量が10%低下するとすると、このまま行けば食料不足になる時代もそう遠くないなと思ったし、虫を食べなきゃいけないのかもしれないとしたら、それだけは避けられるように、今何をすべきか考えようと思った。

カーボンナノチューブというものをよく知らなかったが、事前資料や講演会を通して、なぜ炭素によって作られているのか、半導体として用いるとどのようなメリットがあるのかを知ることができた。ただ話を聞くだけでなく、今後どのようなところで使っていけるか、性能をより良くするにはどうしたらいいかなどを考えるきっかけになった。

後半の「勉強がつまらないと感じるうちは、まだまだ足りていない」という言葉がすごく心に刺さったし、私自身、つまらないと感じる教科がたくさんあるので、まだまだ努力が足りてないんだなと改めて感じた。また、「昨日まで知らなかったことがわかる」というのは、言葉にして言われてよく考えると、すごく魅力的なことだと感じたし、これから様々なことを知っていく中で、知らなかったことに興味を持ち、より深く知ることは自分にとってとても貴重な経験であり、財産であると思った。90分の講演だけど、自分の知らない部分に気づかされる価値ある時間だった。

化学などの分野において、日本はアメリカや中国と比べて遅れているということに驚いた。日本は高等教育が他国と比べて力が入ってないという事実は、大学進学率が54%。というのも相まって、きつくなっているのかなと思った。またノーベル賞を取るような人になるのは、才能などが関係しているのかと思っていたが、遠藤先生は努力を続ければなれる可能性はあるというのを聞いて、今自分も努力をしようと思うことができました。特に響いたのは「なりたい自分」と「なれる自分」は、努力を続けることで、だんだん「なりたい自分」に近づくという言葉です。努力を続ければ、自分のためになるんだなと感じた。この講演会でこれから頑張ろうと思いました。

カーボンナノチューブの開発をした遠藤先生でさえ、次の発見につながる勉強しているのに、目の前の問題集にさえ向かうことができない。自分が恥ずかしくなった。

自分のやりたいことは何なのか、しっかりと自分と向き合って考えていき、そのために自分に何ができるのか、やるべきことをしっかりとやろうと思った。その上で遠藤先生がおっしゃった「勇気、挑戦、不屈の意志を忘れなければ必ず成功する」ということを忘れずに前へ前へと進んでいきたい。

「ことに対して人に対さず」ということを大学に入って、社会に出ていく上で大切にしていき、自分の意見に自信を持って、そういう場で活躍したいと思った。まだ将来の夢や、やりたいことやしたいこと、まだ決まっていなくても勉強は裏切らないから、今はただ机に向かって勉強したいと思う。

今回の講演会において、先生は特に挑戦という言葉キーワードに話していらっしやると思いました。英語は20点しか取れてなかったけれど、遠藤先生がおっしゃったときは、まさか自分と同じような点数だとは思わずとても驚きました。その後2年間フランス留学したと聞いて、そこまで外国語が苦手なのにフランスへ行く決断ができたのは、ものすごい勇気があって、今の僕には絶対できず、しかもその目標のために僕では考えられないほどの努力をしたんだと思うと、やはり成功を掴める人はそれ相応の才能があるというだけではなく、尋常ではない努力をしているのだなと改めて実感しました。そして遠藤先生には及ばずとも、僕もそんな挑戦と努力ができる人間になりたいと思いました。そのためにも、僕はこの3年間を大事にして行きます。

高校での辛さや大変さが大きければ大きいほど、成果が出るということを知って、私ももっと頑張ろうと思いました。世界人口の将来98億人になり、エネルギー量が28%増え、水の需要も年間20から30%増えることで、人類の文明を支えるのに地球が2、3個必要になる。アマゾンの木が伐採され、畑になり、二酸化炭素が増えている。車が1台が排出する二酸化炭素を吸収するために必要になる木の本数は杉の木50本になる。火力発電ではエネルギーの51%を電気に変えている。しかし、これ以上温度を上げ、電気量を増やすことは機械の一部がこまれてしまうためできない。地球の温度が上昇するのは温室効果ガスの層が熱くなっていったために、太陽の光が地上で反射し、地球の外に出すことができなくなってきたのが原因となっている。そのため、50年後には北極の氷が溶け、長野県の栽培がミカンに変化するだろうという推測があり、また今後2酸化炭素排出量が増えていけば、地球の温度が5度上がるだろうと言われている。「弱い紐帯」の話で、人との関係が弱い方がもたらされる可能性が大きいということに驚いた。

高校時代、英語が苦手だったけど、頑張っでできるようになったということから、努力は報われると信じるのが大切だと思いました。地球は汚染水の問題で、多くの人亡くなつてしまつたり、地球温暖化により周りの環境が変化しており、様々な影響を与えているということがよくわかりました。地球温暖化は、地球の周りの空気の層も厚くなるといった原理であることがわかりました。日本は宇宙から見た夜の画像で明るかつた。この明るさが経済の指標になることがわかりました。

日本ではあまり論文の成果で出ておらず、置いていかれていること、GDPの2倍の借金を抱えていることを知つて驚きました。また、学習についての話で、夢や希望を持って勉強することが大切だと思いました。そして「なりたい自分」＝「夢となる自分」を「なりたい自分」にするために努力を必要であると学びました。そして勉強では理想的なインプットとアウトプットの割合が3対7がよいと知りました。また、勉学の努力は裏切らないと言うように、すぐには成果が出るというわけではなくても、いずれかはちゃんと出るということを知つて、ぜひ頑張つていきたいと思いました。そして大学入学で止まらず、大学で頑張る、将来活躍できたらいいなと思いました。

科学や技術は一位しか意味がない2位ではダメだという言葉を見た時、世界は厳しいなと思いました。中国、日本、アメリカ、イギリス、ドイツなど先進国がイノベーションを起こし、今では日本を除いて他の国がトップレベルで論文を数多く発表している、と聞いてすごいなと思ひ、日本が遅れていると落ち込みました。しかし、遠藤先生のようにカーボンナノチューブを使つて研究している日本人もいます。カーボンナノチューブをあんまり知らなかつたけれど、軽くて丈夫でスポーツ用品にも利用できる、水を浄化する働きがあることを知りました。研究者と同じように、私たちが豊かな想像力が必要だということを知りました。また、日本人は世界と比べて意見を主張できない、発言できない傾向があると思うが、今はもう意見を主張する時代なので、ものに対する意見、人を気にして意見を言うことは違ふなと思いました。私たちは未来を担う大事な存在だから、夢を追いかける勇気を持って、一生懸命頑張りたいと思いました。

私は一番最初の「努力は必ず報われる」という言葉で心が動かされました。なぜなら、最近どれだけ勉強に時間を費やしても、全然結果に結びつかないからだと思います。また、お話の中で最初、気候変動について、ヨーロッパでは一階のお店が水浸しになつてしまつたこと、また、38%の生物が絶滅の危機にあること、大気圏もサッカーボールが地球だとしたら、サランラップくらいの厚さだと知り、本当に驚きました。そして怖くなりました。その中でも今、身近にある温暖化について気温が5度も上昇すること、車の排気ガスは杉50本ないと処理できないのに、どんだん木を伐採している現状の恐ろしさも知ることができました。また、イノベーションをこれからの若い人は行つていかなければならない。そのために今から人とのつながりを大切に生活して行かなければならないんだと思ひ知らされました。そのためにも柔軟に考えていけるように、今からさまざまなことを考えていきたいと思いました。勉強して行く上で、インプット3割のアウトプット7割という勉強が良いと証明されたと聞き、試してみたいと思いました。もう一つ、心に残っていることは夢希望を持てば勉強が楽しくなり続けられることです。まだその感情になつたことがないので、努力し、夢を実現できるように。一日一日、大切に頑張つていきたいと思いました。

高校時代というのは実りの時期であり、一番つらい時期であることが分かりました。確かに今勉強が難しく大変だと思うときもあるけれど、勉学の努力は絶対に報われるという話を聞き、自分の将来のために諦めずに挑戦し続けることが大切だと感じました。苦労に立ち向かっていかなければいけないことも、遠藤先生の講演からとても伝わってきました。

日本よりもアメリカの方がどうして勉強時間が長いのか、最初は不思議に思いました。ですが日本の大学生とアメリカの大学生ではゴールが違うからなのだとわかりました。私も大学に合格することをゴールにするのではなく、大学でしっかり学び、将来自分のやりたいことをやるまでを目標にして、今も、そして大学に入ってから努力して勉強し続けたい。です。勉強が楽しい面白いと思えるようになりたいと強く感じました。アウトプットの時間が大切だと聞いたので、アウトプットを自分なりに考えていきたいです。

カーボンナノチューブは未来をより良くする大切なものだと思った。カーボンナノチューブの分子構造の違いによって、電流が流れるものと流れないものにそれぞれ変化するのは面白いことだと思った。1回充電すれば無限に使えるすごい電池ができるのがすごいと思った。それが十年後にはできるということもすごいと思った。ガリレオガリレイは顕微鏡を使いすぎて目が見えなくなってしまう程、研究してるのがすごいと思った。また、何か一つのことに対して熱心に研究したり、学んだりしていることには尊敬する。私も何か一つのこと勉強したいと思ったし、見つけてみたいと思った。

ゴールは大学に行くことではない。大学の先にある将来の夢を実現することがゴールであるという言葉に対して、とても共感した。ゴールを低い位置に設定してしまうとすぐに終わってしまい、努力をすることがなくなってしまうので、私もそのようにしたい。副交感神経の作用によってゴールに近づくと力が抜けてしまうということは知らなかった。そのため、ゴールは自分ができる範囲の高い位置に設定、設定したいと思った。将来の夢の実現のために頑張りたい。

最初の話では、苦手な教科や点が取れなくても努力して勉強していたことを聞き、自分も頑張ろうと思いました。地球温暖化についての話では、影響として水不足や二酸化炭素の増加などがありますが、その課題をみんなでどう解決していくのが大事であって、温暖化を止めて小さな昆虫の声明を維持していくこと、環境を守る大切さを意識していくことが、これからの未来を変えていくことになるなと思いました。また日本の国際的影響力は世界と比べてとても低く、論文数が著しく減退している中、未来のために、自分に何ができるか、何を学ぶべきなのか、どうすれば貢献できるのか、考え直すきっかけとなりました。とても小さなカーボンナノチューブの開発や、充電しなくてもすむスマートフォンなど考えることも続くことが通り過ぎると思います。豊かな衝撃力や豊かな人間関係づくりなど、日々努力していくことが大切であり、夢を持って勉強することが未来の自分の為にもなり、何か貢献できることを見つけることができるのかなと思いました。諦めずに勉強頑張ろうと思いました。アメリカの大学生と日本の大学生の。勉強量の差が大きくて驚きました。ゴールや考え方が違うだけで、こんなにも差が出ることを知ることができたので、大学に行くことがゴールではなく、その先どんなことをするかを心にして、それを楽しみながら努力していこうと思います。

勉学の努力は決して裏切らない。とても響いた言葉でした。定期考査が無い期間などは勉強する時に手を抜きがちになってしまう自分に言い聞かせたい言葉だと思いました。また、今すぐに活かすことなく、将来活かすことができるということも自分の心に刻みたいと思いました。「継続は力なり」という言葉があるように、結果がすぐに出なくても継続して続けるということは、いつか自分の力になると思うので、その考えはこの大切にしていきたいです。「弱い紐帯の強み」という考え方は、目から鱗が落ちるような思いがしました。私は今まで家族や友達から得る情報の方が新しく有用なものが多いのではないかと思っていましたが、今日お話をお聞きして弱いつながりの人からのほうが、新しく有用な情報を得ることが多いのだなと驚きました。素敵なお話を本当にありがとうございました。

遠藤先生の講演を聞いて、遠藤先生はとても偉大な方なんだとよくわかりました。講演の一部で、先生は虫の2つの場面を同時に解説していました。頭の中で2つのことが交わることなく解説するなんて、私には到底できないことなので、先生の講演の仕方には驚きました。そして遠藤ファイバー、カーボンナノチューブの話は非常に知識欲が強くなるものでした。カーボンナノチューブの性質を利用することで、銅に代わる新たな電線や、スマートフォンに入れることで、一度充電すれば壊れるまで使えてしまう携帯など、未来の技術としてあげられるようなものは実現できるんだという感動が私のなかにはありました。そしてお話の中で少し出てきた宇宙エレベーターはこれからの時代に実現できるかもしれないという部分は本当にワクワクしました。先生が学生に向けてお話してくれたものの中では、勇気、挑戦、不屈の意志、努力が大切だとおっしゃっていました。そして勉強ではインプット3割のアウトプット、7割が効率的ともおっしゃっていました。これは勉強して行く上で大切なことだと思ったので、心に留めておきたいと思います。先生のお話の中の never never never give up という言葉は、先生がカーボンナノチューブの研究をしている中で大切にしていた言葉だと聞きました。私も先生のような諦めない心で、これからの学校生活を過ごして生きたいと思います。

講演を聞いて一番印象に残ったことは、夢や希望を持って勉強するという言葉です。高校時代に頑張ったことが将来必ず報われると言うことを聞いて、もっといろんなことに挑戦しないといけないなと感じました。今の日本の経済力や国際的影響力は減退していて、世界で日本は孤立してしまう危機にあることを知りました。自分たちが大人になった時はもっと、働いても働いても儲からない国になってしまう可能性があるかもしれないと思いました。それを変えるためには、イノベーションを起こす必要があり、いろんなことを発明するために多様性が大事なことに繋がることが分かりました。

それから、世界と日本を比べたとき、日本人は意見を出す時に相手の話を最後まで聞いてから自分の意見を言おうとするけど、世界では意見がバンバン飛び交い、意見する時も相手を否定するのではなく、相手の意見を正しい方向にもっていくために意見する、という考え方でいることを知り、私もその考え方で意見を出していきたいと思いました。他にも、日本が世界と違うところは、大学をゴールだと思っていることであることを知り、その先の将来、自分がどんな姿になるかがゴールだと考えれば、大学や高校での勉強は当たり前になることがわかりました。豊かな想像力を持つためにも勇気、挑戦、努力が必要になることを知り、今の高校生活をより大切に過ごしていきたい。

先生が高校での体験談をお話しており、心に残った言葉は「つらいことが多ければ多いほど得られるものも多い。」。たくさんを体験したからこそ言えるし、説得力があるんだなと思った。2100年までに北極で15度気温が上がると予想されており、予想されているのも凄いと思ったけど、15度も上がってしまうんだとびっくりしました。長野も5度上がると言われていたらしい。今はリンゴたくさん作られ、有名な産地だと言われてるけど、みかんが適するようになる。人口が増えていくにつれて、穀物がこのままだと減ってしまう。食料確保も重要な問題だなと思った。生命界の頂点である人間がエゴを貫くのではなく、すべての生き物のために環境保全することが大切という言葉聞いてとても心動かされた。

現在、日本はGDPに対して借金が2倍あるが、自分たちのような新しい担い手がいれば、この問題も解決できるかもしれないということで、これからの生活で新たな目標を見つけ、多くの問題にあふれている世界のためになることを小さなことでも始めてみたいと思った。未来の世界のためになら正しい製品技術がとても楽しみになります。

今日の創立100周年記念の講演を聞いて、私は三つのことが印象に残っています。一つ目は、遠藤先生が一番最初におっしゃった「長年の努力は跳ね返ってくる」という言葉です。遠藤先生の高校時代の話聞き、努力したことは今すぐに報われなくても、いつか必ず報われるのだから、嫌いなことでも頑張ってみたいと思いました。二つ目は地球温暖化についての話です。その中でも、地球の温暖化で一度気温が上がると、食物の収穫量が10%低下するということです。もし地球温暖化がこれからも進むのなら、環境問題だけでなく食糧問題にも繋がってしまい、そこからさらに多くの問題が起きてしまうのではないかと思います。三つ目は、自動車などの燃料についての話です。今は日本でも電気自動車や水素燃料が使われているけれど、フランスなどの他国と比べると発展が遅れているなど感じます。私は今日の講演を聞き、日本の環境や他国の科学の発展についてのニュースや記事を読んだりしたいと思います。また、私は大学ではなくデザインの専門学校に行くけれど、その先の未来に向けて勉強にも力を入れて行きたいと思いました。

地球温暖化の影響を聞いて、世界的にとっても大きな問題だと思いました。そして、地球温暖化により北極は15度も気温が上がり、長野県も5度上がってしまい、りんごを育てられなくなってしまう。また、人間はクーラーをつけたり、暖房つけたりできるが、虫たちはできないので干からびてしまったりする。地球温暖化は環境にも虫にも大きな影響を与えていると思った。タイやヨーロッパでは地球温暖化について対策している。しかし日本の経済力は下がってきている。それは日本の高等教育の発達がうまくいかなかったり、論文の数が伸びてきておらず、世界的に注目もされてきておらず、世界とのつながりもなくなってきている。日本は、働いていても世界に比べて儲からない国になっている。それを直すためにはイノベーションすることが大切だということがわかりました。また、努力をすることがとても大切だと思いました。勇気、努力、不屈の努力の三つを大切に、やりたいことの目標をしっかりと持って勉強をしたいと思いました。90分間という時間だったけれども、とても充実した時間で、今後にも生かせそうな話もあり、とても急興味深く面白かったです。